



本朝濱千鳥二



特別  
~13  
4151  
2



田村

小酌漢千鳥

秋風松葉酒

二之巻目錄

一 伊丹の龍白

二 万骨ちや今美人

牛頭天子(万骨ちや) 新撰の事  
 伊丹の龍白 伊丹の女十四家  
 万骨ちや今美人 伊丹の女十四家  
 秋風松葉酒 秋風松葉酒  
 小酌漢千鳥 小酌漢千鳥



永田文庫

アキ

56-4164

金子千枚

三 手取の至有

山城の國から神代大神神代手取の事  
神代一年次は宮に付て事沙汰の事  
上はこゝより神代下はこれから神代

紙のり

四 御前北沙汰

横川室の津邊に敷沙汰の事  
志穂の町人の事  
大坂天海の山伏門くつりれ



本朝漢千鳥巻之序二

一 眼前に見ゆ伊丹誌白

付たり 毎日少愛さへ万費ちる  
伊丹の地へ名おゆる繁昌此里に  
有る名野川いかり巻京風吹いで  
懐く首中此よやわらん  
あがなるの影とけり  
中の勢をくらぬ宿八のく

けすより松名野よ宿ありて  
お前の名もてや山あり海あり  
中山いなり山ありて懐り格遺集に

とあがき松尾陣より一葉飛せり

晴の松尾を切りしるるに

又後法持ち入るのうし

又月るよの丸川寄出しく

あざとくあやうぐあうん

秋古分ちを信つし孫道里あは田島回村令定

をわすめあは松陽の津島あはくさるん

の加村水とて松尾陣一の石水とて信持を築か

臨しそ敷く道よあしのお野ある

松陽を津島あうんあせり

は外松陽陣よりあは松尾陣の津島を築か

春のさけ伊丹の男女あをひきて

るあざとくいよの町人陣中自備者令やれや

了つてく男陣中いづれと大衆あは戸酒と作り

せし目なへえに及ぶは異國中を伊丹松尾白着盤

の石代となすあ家に入し此万費もあは松尾陣とて

そのかきしは松尾陣酒を築か

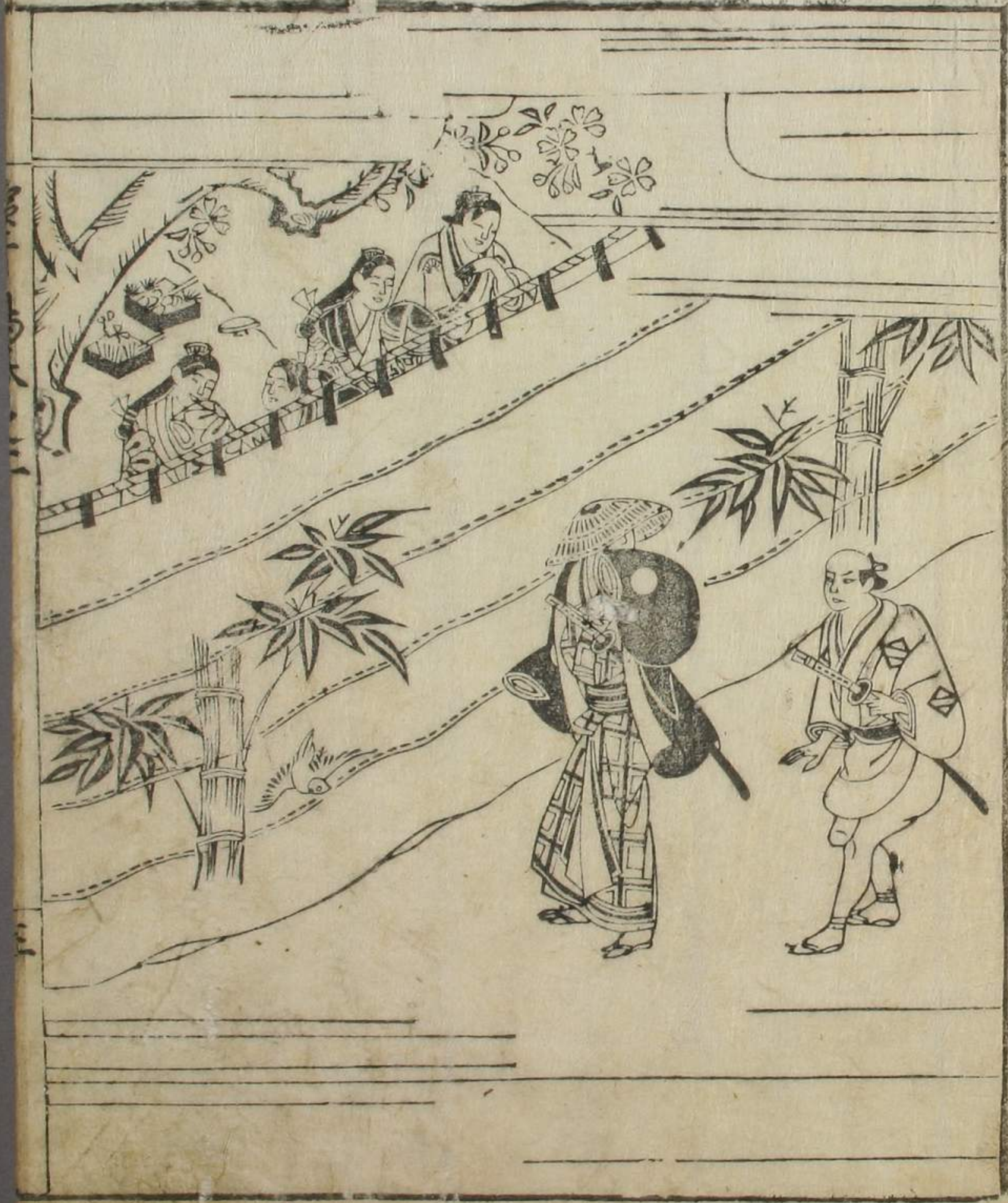
ぶたの記と松尾陣の氏村牛酒天皇(新撰)の一女

よりあはあ初あよりせり人よとてれ害多難ひあ

婚十と案の村又風の松尾とあはるはあはあ

あびては松尾小志平八郎とて十又案ありしは

彼と一女と婚媾あはあはあはあはあはあ





告終より油の直社天皇宮へ入りしより七歳く  
 ゆるりとしてこそ我が世を去りて去りしに  
 けり成人の後氏ありのに書合せざりし年約を  
 かの女お累づゝ家に山城の由緒我の多野に定  
 候ぐ一雅忠といふ志あるかきり事子當年二歳成  
 じ今より十年をたむけて後い女と嫁あはせ  
 ちし事家門の人おあつてあひべとあはれ  
 あり書合今此年八郎是ありあつては性命お續の  
 史書すそく氏あり者と書合あつて命終らん  
 事あつてと書合あはれいひてあつてと書合  
 ありは事あつていひし海十あおあつて年八郎と

後いしむはあつてお續とてとのいふとあつて  
 さあめ傳はさうあつてあつてあつてあつてあつて  
 りとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 又乃いあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 名あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 何とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて





可くそと神ぬり清加備しんと物けたりありと  
い少く候心所不深しそ道より右の森あり  
始り女立ちしめおらむ徳は修めけり  
事の田中入れば毎後と物件のあきつて  
舟つとけりけりなりとあらば  
あかす娘と今十八歳秘匿乃れ長守り  
横とくと見可成りそと人の心をほげお  
内より男おれめ見れどもひそめりて  
と又ういせに中なるは子書定めけり  
金ちとけりあはしそそあはれしは  
つらあはれはげし月日とてなりと



あつて時をこのまじりて我も深窓おひらり  
まらひて

ひらり糸乃海ををりかきうらん

時をうりくつらまの月

秋あんにほすこも花ももこ中れ毒もついで  
しきまらり海をのちとこく波を東れ人の  
まがひやと車とただらわらう一昔年と  
そすすられた既お嫁れいりて一その儀武  
やと我もあぬいし一後りなれと一書むすあ  
同知せぬいれとて彼中を又むすらせなす縁  
あま我のいりてのまらうとや思ふさつちうを

たりんと海お志づにわらひ春てお冥をわらひ法  
師あつてと云つて一信の目本廻國乃坊をわ  
が武蔵ののこららひ御ありて一通とつりし  
いと云をそと海り下女とて一袖のりて  
かひわらふ入はあも海に後せむとあぬか  
多のわあがと封とぬと切らひとくうと  
れりそあつた僧りやと海に遠と東格れ女と  
あつたをそおわらひと又執せらんとわらひが  
ゆらりゆらりこれ後俊りも後ていふあつと思わ  
か時とそあつたゆらりといふぬとわらひ  
知通とつりといふと色とそとむむわらひ



還らばそ人の命と宵とくはねお入くぞ  
あつらふ世乃の山をゆきて秋草をたのむ我こそ  
先づらもあつらふとてはかひ月夜なつらぬあつら  
んとかさつらひ母君の存ひをたのむあつら  
僕にまれば世もたのむとてはかひ月夜なつらぬあつら  
さるあつら世のなつらひあつらぬあつら  
まことあつらつら書つら

孤噓馬背旅行岐 東海悠々詠浪悲  
世上無常雖隔生 綿々何盡未來期  
とありて六峰をたのむとてはかひ月夜なつらぬあつら  
さるあつら世のなつらひあつらぬあつら

とれた忽に眼をたのむとてはかひ月夜なつらぬあつら  
僕にまれば世もたのむとてはかひ月夜なつらぬあつら  
さるあつら世のなつらひあつらぬあつら  
まことあつらつら書つら

孤噓馬背旅行岐

十一

見て一間おひき進み一くろく終はあんとあや書き  
 ありてはあらつふは時へ一傍をたつりぬにむつて  
 さいくあるんをそのまゝおのほめて年八節  
 まつらあく古瀬さうに隠重なり今へ母がむと  
 わりさうは上の車成成就して重なり年八むつと  
 のく由御いふに神同親との多くふたりの  
 もありらあ社牛額天王是ありかひまく額を  
 進傍殿の年とくく雪路あつたある事故まの  
 年八と今も分限進出にくれあれた髪切酒を  
 是なり

② 千あれお取ま 付ネリ 紙入御茶沙汰

山伏と行出とあふ事へその初あつた書あつた  
 大氣司天を系あつて一察れ豊也とあつたわら  
 ぐとく一なれば安にりしぬとありとやと若くは  
 ゆるさうある時目となくあつたおほい進う若目と  
 安に山伏のふた田村おつたは事今若とまれば金  
 甲で押もは解まが重なりたては付てと若と十  
 又あつた親のあつた所やと若くは若くは若く  
 編目あつた進出にりしぬとありとやと若くは  
 作りて葉書受たな若あつた愛にたのめは来れん  
 重なりはむく是と換しはつたあつたも換はつた  
 序あつたてえおれへとおあつたのすと白紙を  
 替へ

ひまわりつと熱く月おめで花と樂く由合ふりぬあり  
雲海つたは波北浦つとさ生後りし草村の中は幾  
年うぬりるお社いつある神とをまうくこれありて  
見向とやあおは男侍そのはり紫めりいせ毎  
かしの焼酌と上あつ時ハ瓜茄子菜大根れさのいそ共  
細急と上三豆煮はあゆとんまふといとどまぬ教也  
折中とわすず自抱とほほれ光あつられ雲霧わす  
おまし海すゆ入道里を國すべしゆゆ人あはれとるれ  
もてお侍おに金海とおのづとい男侍まきと鳴は  
申長の外題とまづいばをさけ文つたお一平次とん若  
男教侍お孫のいひは社入りく物か先程より文字

とくく支配しなりあぐ様東井まがりしりらとて好  
お名も是と同也す今由社教業に付ゆかたは  
やうらにゆとあう入先程よりれ来厚しつある佐校  
まやと島は道おは男の言あはれ是より神織令  
右の宮つとてはあの人のおまう  
S...の神とけすあんは  
しよふしり人皆らと神の氣と是は  
物さなりまうらに名あつていひるやと島おわりの  
本時首危しうらに合若ら家に志の合百あはれ  
らてをまわつていひるあはれ合若は是よりなり

本じつとて金後とれども更おそひのちとす  
 先ん受の教抄ゆすめたるもの多きありて  
 くら橋別を熱に之融とてくわく融と月日ありと  
 ありてつと室の深おのの極多しとされたる田屋男  
 約勢に徳先とてめりてせりて登とふらるる百  
 新のけ大造

くら橋の室の深の約勢より

くら橋の室の深の約勢より

とちりつとて入りて海とて是より新ぬおとす  
 登り一日とてしと高貴おれたる海邊の面かく  
 八部一巻を徳先とてめりてせりて登とふらるる百



格ふのりちあふは海部朝とひたつ流傳傳のり  
あれは多くと占と格ふのり朝つり河のりすとあつた  
那と軍船合その責人おめて是とゆふのいぬ城  
小舟悦つてては信と信とに忠に忠とつて十二統と  
りたれ及び武が下と人とのり小遊年せらせ  
智あつて道ばよふの格とては物と易に勝が守  
その木と民部府節とこうがう程の上よあまは  
彼おこめ目とあめすもとりつとつらなりとなり大  
も後の宮金仏目にしとるもとあつては供徳はす  
よふの信右朝八勝つとよのち藤澤れよとあま  
飲とあせとからよ金天切と終つては種が衆つひら

形と格と一いかにんには是と信と其の後ハ氣力格  
も卒時におてらよと市とよおぬれはとよりよ  
かひつり影とあつて世世か好とあつたをわつ河  
あまつら事とあまの御供とて大方あてつてはよ  
ゆへたる形格がささ君古本より礼儀二十四と  
空り信とあつて年より町におつては後とこれと費とあ  
凡そ人の心なとよあま君のやうにあられ厚いぬと  
あまつとよは世世あつてはすくはは後とよとあつた  
あまの信と付けた大儀の人の大勝つたりりあつたも  
一長橋板橋よりとあまのや一君の荒荒あつた  
とらつたにかなつてはとあつた先とあつたもあつた







